

# みんなくりポジトリ

国立民族学博物館学術情報リポジトリ National Museum of Ethnology

国立民族学博物館における1980年代までの北アメリカ先住民資料の収集について：  
イヌイト版画と北西海岸先住民版画を中心に

|       |  |
|-------|--|
| メタデータ | 言語: jpn<br>出版者:<br>公開日: 2016-05-12<br>キーワード (Ja):<br>キーワード (En):<br>作成者: 齋藤, 玲子<br>メールアドレス:<br>所属: |
| URL   | <a href="https://doi.org/10.15021/00005999">https://doi.org/10.15021/00005999</a>                  |

## 国立民族学博物館における1980年代までの北アメリカ先住民資料の収集について —— イヌイット版画と北西海岸先住民版画を中心に ——

齋藤 玲子  
国立民族学博物館

### 1 はじめに

国立民族学博物館（以下、みんぱく）で北アメリカの民族資料を精力的に収集された小谷凱宣先生（名古屋大学名誉教授）から、最初にコレクションの概略について聞いたのは、1990年ころだった。小谷氏はすでに名古屋大学に移られていたが、みんぱく在職時に収集した資料について、気にかけておられた。とくに版画については、当時は館内でも現代の作品を収集することに躊躇する意見もあったそうだが、「10年を過ぎて価値は上がり、やはり購入してよかった。」とおっしゃっていた。

その後、いつかこれらの資料について調査をしたいと考えてきたが、共同研究によって実現することができた。そして、特別展や出版というかたちで、その一部ではあるが、公開することができた。

以下に、小谷氏が執筆されたものと、みんぱくで開設時から資料管理に携わってきた宇野文男氏がまとめた冊子（宇野 2000）などを参考にしながら、北アメリカ先住民資料の概略を示す。

### 2 みんぱく設立当初の北米北部資料

みんぱくが発足して間もなく（1975年）、他の大学や研究機関等から多数の資料が移管された。その主たるもののひとつが、東京大学理学部人類学教室の旧蔵資料である。資料の総数は6000点を超す。

東大の人類学教室では、明治20年代から坪井正五郎や鳥居龍蔵をはじめとする研究者らにより、アイヌ（北海道・樺太・千島）、沖縄、朝鮮半島、台湾、オセアニアなど日本とその周辺の諸民族を中心に資料が収集されていた。これらの資料の中には、数はあまり多くないものの、イヌイット、アリュート、北西海岸先住民など、北アメリカ大陸北部の先住民の資料が含まれていた。東大からの移管時に、資料情報を記載したのとして「土俗品目録」が付随していて、「アメリカ、エスキモー」の分類には180件の資料があり、みんぱくでは162点が登録されている。

そのなかで特筆すべきは、明治期にブリティッシュ・コロンビア州に在住していた実業家の相川之賀が収集した北西海岸先住民の仮面など50余点や、デンマーク国立博物館

寄贈のグリーンランド・イヌイットの資料30点余りが含まれていることである。東大の旧蔵資料については、1938年11月～39年にかけて毎月1冊合計12集刊行された『内外土俗品図集』（長谷部言人監修・東京人類学会編纂／宝雲舎）に、約1000点の図版と解説が収められている。その内容は、1：仮面及人偶、2：頭部着用品、3：肢体佩用品、4：衣服、5：漁猟農具、6：調理飲食、7：編織、8：工作、9：舟・舟具及貨幣、10：家屋家具、11：武器、12：儀礼遊戯、となっている。仮面など北米資料の主だったものは、この図集に収録されている。

また、1950年代に東大教授であった岡正雄とイヌイット文化研究で著名なカイ・ビルケット＝スミスとの間で資料交換がおこなわれ、日本からは考古学資料約60点が、デンマークからはグリーンランドで1910年ごろに入手されたイヌイットの考古・民族学資料90点が日本に贈られた。それらは、東京の保谷にあった日本民族学会附属民族学博物館の旧蔵資料として、みんぱくに移管されている。東大旧蔵資料とともに、いずれも古く貴重な資料である。

このほか、1970年の日本万国博覧会のために収集された資料があり、その一部がみんぱくに寄託されている。

### 3 開館のための北西海岸資料の収集

1977年11月の開館に向けて、北アメリカ地域の展示責任者であった大給近達教授（国立民族学博物館名誉教授・2013年没）を中心に、展示に必要な資料の収集がおこなわれた。カナダの北西海岸（ブリティッシュ・コロンビア州）各地を訪れて資料を購入するとともに、制作に時間を要する大型資料については、展示のオープンに間に合うように北西海岸先住民の工芸家らに制作を依頼した。

その代表的なものが、みんぱくの正面玄関前庭や常設展示場にあるトーテムポールである。その他の収集品には、仮面、供宴用の木製食器類、繊細に編まれたバスケット類、首長がまとうチルクット・ブランケットなど、北西海岸の文化を特徴づける文様をほどこした民族資料が多数あった。また、若干のシルク・スクリーン版画も含まれていた。

### 4 開館後の主な収集

小谷教授は、1970年代末から将来の展示替えや北アメリカ大陸北部の研究資料の充実のをめざし、精力的に収集をおこなった。その活動は、小谷教授の大学院在学時の同窓生や教官らの人脈で、カナダ国立文明博物館（現カナダ歴史博物館）の初代館長ジョージ・マクドナルド（George F. MacDonald）氏をはじめ、現地の事情に詳しい専門家の協力を得たものだった。小谷教授がかかわった収集のなかでも大きく3つのコレクショ

ンについて、次に記す。

#### 4.1 ルオンゴ・コレクション

ニューヨーク州モンロー市にあったブルーム交易会社 (Plume Trading & Sales Co. inc) 付設のインディアン博物館の一括資料で、ネイティブ・アメリカンの生活用具が1979年に受け入れられた (データベース上は1200点余り)。同社の経営者ジェームズ・M. ルオンゴ (James M. Luongo) が、1920年代から約半世紀かけて収集したものである。アメリカ合衆国およびカナダ連邦全域の民族資料があり、北東部の東部森林地域、ロッキー山脈東側の大平原地域の狩猟具、衣類、儀礼具などをはじめ、カリフォルニア地域の籠類、南西部の彩色土器、人形などが多数ある。また、北西海岸地域の衣類、仮面、籠類、人形なども含まれている。一方、北方森林地域や極北の民族資料は比較的少ない。

#### 4.2 イヌイットの版画

イヌイットの版画制作は、1950年代末にケープ・ドーセット村で始められた。その後、版画制作はカナダの極北の村落にひろまり、1980年前後には、西は北西準州のホルマンから、ヌナブト準州のパフィン島の村々、さらにケベック州北部を含むハドソン湾沿岸の村々などでも制作されるようになった。コミュニティ別の点数等は別稿に記したが、版画発祥の地であるケープ・ドーセットが多く、次いでプングニトゥクをはじめとする北ケベックなど1960年代から制作を始めた地域のものが多く収集されている。

イヌイットの版画は、カナダ文明博物館でイヌイット・アートの担当キュレーターであるオデット・ルロワ (Odette LeRoux) 氏が選定したという。現在では版画制作を中止した村々も多く、みんぱく所蔵の1980年代までの版画資料はイヌイット版画の歴史的变化を反映している貴重な資料ともいえる。

#### 4.3 北西海岸インディアンのシルク・スクリーン資料

シルク・スクリーンの収集は、前述のG・F・マクドナルド氏と、王立ビクトリア博物館 (現ロイヤル・ブリティッシュ・コロンビア博物館/ビクトリア市) に勤務していたリチャード・イングリス (Richard I. Inglis) 氏の助言と協力を受けておこなわれた。そして、イングリス氏を介して、ヴィンセント・リカード氏 (Vincent Rickard: 版画家で版画工房経営者) を紹介され、同氏の当時の工房兼ギャラリー (Open Pacific Gallery) で制作された先住民の版画 (シルク・スクリーン) の多くが、みんぱくに収集された。

原画の制作者は北西海岸先住民のアーティストで、彼らの出身は、BC州の広い範囲にわたっている。収蔵品で多い民族グループはヌー・チャー・ヌルス (ヌートカ) とクワクワカワクウ (クワキウトル) で、それは最初にシルク・スクリーン制作をはじめた

アーティストが属していることと、リカード氏とつながりの深い作家が多いからである。

これらの版画は、北西海岸先住民とイヌイットの版画制作の状況やアーティストに精通した学芸員らが選定しているため、当時の代表的な作家がもれなく含まれている。また、描かれているモチーフや、イヌイットでは技法の種別も、制作数の多寡を反映しつつ、偏りなくバランスのとれた配分をしたものということができる。

## 文 献

宇野文男（国立民族学博物館編）

2000 『みんぱくコレクション』（みんぱく発見②）大阪：財団法人千里文化財団。

大給近達

2007 「ポトラッチで作って貰ったトーテムポール」『月刊みんぱく』31(12): 18-19。

小谷凱宣

1980 「ルオンゴ・コレクションの民族学標本資料」『民博通信』7: 48-51。

2009 「民博所蔵の北米北部先住民資料について」国立民族学博物館編『自然のこえ 命のかたち — カナダ先住民の生みだす美』pp.82-83, 京都：昭和堂。